



令和4年6月9日
海上保安庁

日米コーストガード合同訓練（サファイア 22 結果概要）

～海保初、米国コーストガードセクターグアムとの合同訓練～

海上保安庁は、令和4年6月7日（火）、米国グアム沖合において、海上保安庁巡視船「みずほ」及びUS コーストガード巡視船「オリバーヘンリー」による合同訓練を実施しました。

先月サンフランシスコ沖合で実施した合同訓練に続き、日米共同取組「SAPPHIRE（サファイア）」に基づく本年2回目の合同訓練となります。

1. 訓練概要

- 日 時：令和4年6月7日（火）
午前10時00分から午後3時00分まで（日本時間）
- 場 所：米国グアム沖合 ※訓練海域略図参照
- 参加巡視船：
 - ・海上保安庁
第四管区海上保安本部名古屋海上保安部所属
巡視船「みずほ」
総トン数6,000トン、ヘリコプター2機搭載型
 - ・米国沿岸警備隊
太平洋方面司令部第14管区セクターグアム所属
巡視船「オリバーヘンリー」
排水トン数350トン
- 訓練内容：密輸容疑船捕捉訓練



2. 訓練結果

日米の海上保安機関である海上保安庁及び米国沿岸警備隊は、1948年の海上保安庁創設期より深く交流しており、様々な機会を通じて、連携・協力の強化を図ってきたところです。

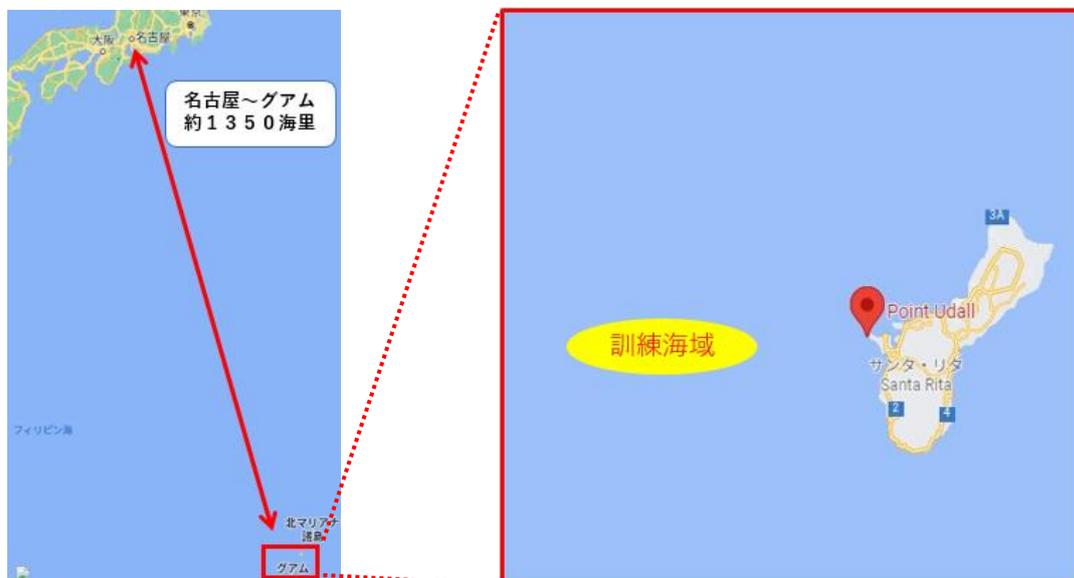
今回の訓練は、本年5月18日に海上保安庁と米国沿岸警備隊との間で署名

した 2010 年の協力覚書の付属文書に基づく日米共同取組「SAPPHIRE（サファイア）」の一つとして実施したもので、本年第 2 回目の日米海上保安機関合同訓練です。

本訓練は、薬物密輸容疑のある外国漁船の取締りを想定して、両機関の情報伝達・情報共有の方法を確認するとともに、外国漁船の発見から、追跡捕捉、停船措置、立入検査等の一連の流れを双方が確認することにより、海上犯罪の取締りに必要な技術・知見を共有しました。

今後も海上保安庁は、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に向け、日米共同取組を通じて、米国沿岸警備隊との連携・協力を推進します。

<訓練海域略図>



<参考 1 >

SAPPHIRE（サファイア）

- ・ SAPPHIRE : Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and Integrity on the Rule-of-law based Engagement
- ・ 日本語訳 : 法の支配の取組における誠実と仁愛に基づいた平和と繁栄のための強固な連携

<参考 2 > 2022 年第 1 回日米海上保安機関合同訓練

- ・ 5 月 21 日、サンフランシスコ沖合にて海中転落者捜索救助訓練

<参考3> 米国沿岸警備隊の概要について

- ・ 組織概要

国土安全保障省に所属する海上法執行機関。太平洋と大西洋の2つの管区方面本部、その下に9つの管区を有する。

- ・ 勢力

職員約 49,000 人、船艇約 1,900 隻、航空機約 200 機

- ・ 主な任務

法令の励行、航行安全、海難救助、海洋環境保護、国防・有事対応

<訓練の状況>

